

# ポットホール簡易補修延命 ピタホールキット



ジャパン・レジリエンス・アワード

2022

『企業・産業部門』  
優秀賞獲得

特許取得済  
第 7144706

NETIS 登録  
CB-220028

ポットホール補修を誰でも簡単に施工できる『ピタホール工法』の必要部材一式が入ったキット製品



## 【内容物】

- 高耐久常温合材 5 kg
- AS 乳剤 480m ℓ
- ピタクラック 50 cm角

## 販売価格

¥14,300 (税込)

## 施工工程

バーナで水分・溶剤を揮発させます

(プリスタリングの予防)



《清掃》



《乳剤散布》



《材料敷均し・転圧》



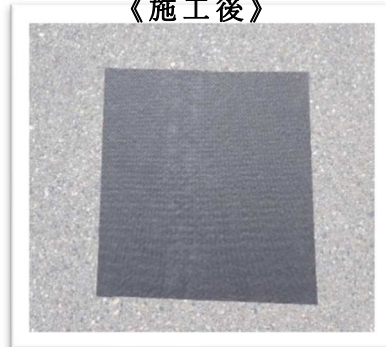
《テープ敷設》

《施工前》



施工

《施工後》





## お問い合わせ

三和興産株式会社 愛知県一宮市木曾川町玉ノ井字砂割 31 番地

TEL:0586-87-5898(ピタホール販売課) 平日 8:00~17:00

# ポットホール補修延命工法「ピタホール」 ～ 施工手順(詳細) ～

施工順序	施工方法	使用機器等
<p data-bbox="153 344 376 405"><b>施工前(例)</b></p> <p data-bbox="153 427 376 551">(ポットホールの大きさがφ 30cm以下、深さ5cm以内 の破損に対応します)</p> <p data-bbox="153 696 376 763"><b>1. 準備</b></p> <p data-bbox="153 1339 376 1406"><b>2-1.乳剤散布</b></p> <p data-bbox="188 1912 341 1951">(次頁に続く)</p>	 <p data-bbox="411 734 528 772"><b>1. 準備</b></p> <p data-bbox="411 786 1214 965">施工箇所および周辺の清掃を行います。 施工面にゴミやホコリが無いようにホウキ等で清掃して下さい。 施工箇所<sup>に</sup>取れそうな<u>弱い箇所がある時はハンマー等で叩いて除去して下さい。</u></p>  <p data-bbox="411 1384 647 1422"><b>2-1. 乳剤散布</b></p> <p data-bbox="411 1435 1214 1559">綺麗になった施工面にアスファルト乳剤を散布して下さい。 塗布量は施工面に乳剤が垂れない程度が適量です。 塗布は施工面が乾いた状態で行って下さい。</p> 	<p data-bbox="1251 813 1374 936">・ホウキ ・ちりとり ・ハンマー</p> <p data-bbox="1251 1429 1445 1496">・(スプレー式) アスファルト乳剤</p>

施工順序	施工方法	使用機器等
<p>(前頁の続き)</p> <p><b>2-2. 乳剤加熱</b></p>	<p><b>2-2. 溶剤を揮発させる</b></p> <p>乳剤に含まれる水分・溶剤分は気温の上昇に伴い揮発し体積膨張を起こします。膨張した気体は「4. 補修テープの敷設」で貼り付けるテープを下面から押し上げて接着力を低下させます。この接着力低下を予防する目的で、塗布面全体をハンドバーナー等で15秒間程度軽く炙るように加熱して溶剤等を揮発させます。</p> <p><u>注) 乳剤への着火は絶対に避けて下さい。</u></p> 	<p>・(ハンド)バーナー</p>
<p><b>3-1. 常温合材の敷き均し・転圧</b></p> <p>(次頁に続く)</p>	<p><b>3-1. 常温合材敷き均し・転圧</b></p> <p>修復したい場所にアスファルト常温合材を敷き均し、タンパやハンマー等で材料の沈みが無くなるまで転圧し、周辺と同等の高さになるよう平滑に仕上げます。仕上げた際の高さは周辺よりも2~3mm程度高く上げると供用後の僅かな沈みにも対応できます。(適当な大きさの木板を使って転圧すると綺麗に仕上がります)</p>   <p>高耐久性常温アスファルト合材を使用する場合は、事前に材料へ所定量の水を混合させてから打設して下さい。</p>	<p>◎交通量が少ない箇所 →(ｽﾌﾟﾗｽ)常温合材</p> <p>◎交通量が多い箇所 →高耐久性常温合材</p> <p>・ハンマーやタンパ等の転圧道具</p>

施工順序	施工方法	使用機器等
<p>(前頁の続き)</p> <p><b>3-2.施工面加熱</b></p> <p>↓</p> <p><b>4.テープ敷設・圧着</b></p> <p>↓</p> <p><b>施工完了</b></p>	<p><b>3-2.溶剤を揮発させる</b></p> <p>常温合材に含まれる溶剤は「2-1.」同様、気温の上昇に伴い揮発し体積膨張を起こします。したがって、補修部をハンドバーナー等で1分間程度軽く炙るように加熱して溶剤を揮発させてください。<u>注) 材料への着火は絶対に避けて下さい。</u></p>  <p><b>4.補修テープ敷設</b></p> <p>テープ貼り付け場所の表面温度が手で触れる程度に下がった事が確認できたら、テープ裏面の剥離紙を剥がし、テープ中心に補修面がくるように路面へ接着させます。その際に接着面へ空気が入らぬよう、片方からゆっくりと路面に貼り付けます。貼付後は足裏でテープを押しつけ、圧着したら施工完了です。</p>  	<p>・(ハンド)バーナー</p> <p>・清掃道具</p>